

2021年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
221841085	臨地実習C(臨床) Field training for professional C (Clinical Nutrition)	林明日香、岡本康子		専門	2	選択	4前期

科目の概要

本教科では、4単位（4週間）の実習が必要である。基本的には、A（給食基礎）から1単位、B（公衆栄養・給食応用）から1単位、さらにC（臨床：病院）から2単位を修得する。内容は実習施設により異なり、それぞれの施設の教育計画に基づいて実施される。これまでに学んだ関連教科の知識・技術と社会人基礎力を基に、臨床栄養・公衆栄養・給食経営管理のそれぞれの実践の場で栄養管理業務を体験し、管理栄養士に必要な健康の維持増進、疾病の予防、疾病の治療・重症化予防において栄養管理及び栄養指導を行うことができる知識、能力を身に付ける。

学修内容	到達目標
① 実習では、授業の中では経験できない現場での業務を通して、“職業”を実践する学びの場とする。 ② 授業で得た知識と現場に立った時のイメージの違いを、実際の業務の一端を担うことで極力修正する。 ③ 理想と現実の差が明らかになる現場で、何が問題点で、これをどうするべきか（課題と解決策）を自分の問題としてとらえ、自らの考えをまとめる機会とする。 ④ 座学で得た知識を最大限に使って現場での業務に活用するとともに、さらに必要なものは何か、現在の自分には他に何が必要かを改めて認識する。	① 授業では、学ぶことが出来ない現場の実践があることを知る。 ② 授業と現場のイメージの違いを修正することが出来る。 ③ 現場にはさまざまな問題点があることを知り、自分の考えを持つことができる。 ④ 今後、自分が学ぶべき方向性を見出すことができる。

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素	学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例	
前に踏み出す力	主体性	常に主体的に行動し、医療従事者としてチーム医療に貢献できる資質を見つけることができる。
	働きかけ力	
	実行力	現場の管理栄養士の栄養管理業務の学びから、傷病者のための、具体的な栄養ケア方法を習得できる。
考え抜く力	課題発見力	現場業務の諸問題に対し、課題を発見でき、専門的知識および技術の統合をはかることができる。
	計画力	
	創造力	目標とする管理栄養士をイメージし、事前課題や臨地実習を目的意識をもって取り組むことができる。
チームで働く力	発信力	臨地実習で疑問に思ったことは質問を投げかけ、積極的に臨地実習を受ける態度が身についている。
	傾聴力	様々な情報を集約できる傾聴力を養い、管理栄養士の使命や役割について理解ができる。
	柔軟性	
	状況把握力	
	規律性	守秘義務の順守、挨拶、言葉使い、服装など社会的マナー等の規律性が整っている。
	ストレスコントロール力	

テキスト及び参考文献

テキスト：臨地・校外実習 加藤昌彦 續順子 塚原丘美 建帛社

他科目との関連、資格との関連

他科目との関連：栄養実習事前・事後演習、臨床栄養学、公衆栄養、給食経営管理論他
 資格との関連：管理栄養士、栄養教諭、食品衛生監視員

学修上の助言	受講生とのルール
<ul style="list-style-type: none"> 食には衛生管理が必須であるので、習慣的に衛生管理を実践し、規律を遵守する姿勢を身に付けること。 健康を守るためにどのような人がどのような努力をしているのかを自分に置き換えて考えること。 社会に出ると自分の怠慢や失敗が周囲の迷惑になること、体調管理は自分だけの問題ではないことを認識する。 	<ul style="list-style-type: none"> 事前事後演習に必要な知識を得た上で、臨地実習A（給食基礎）、B（公衆栄養・給食応用）、C（臨床）に真摯な態度で臨み、理想とする管理栄養士像をイメージし、将来進むべき方向性を考える貴重な機会となるように取り組むこと。 実習中は自己都合による欠席、遅刻、早退、課題の未提出等は認められない。病院の判断で処遇されるので注意すること。

【評価方法】

評価対象	評価方法	評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント			
学修成果	学期末試験	0	①				
			②				
			③				
			④				
	平常評価	小テスト	0	①			
				②			
				③			
				④			
		レポート	90	①		✓	実習に於いて積極的に学ぶことができたか、どのようなこと学び、そして何を得たかなど、取り組んだプロセスや結果について評価する。 実習目的を明らかにし、その内容に伴った実践力が身についたか、事後はどのような自己研鑽をすべきかの振り返り、実習中の態度も含め、実習ノート、事後報告書を総合的に見て評価する。
				②		✓	
③				✓			
④				✓			
成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）		0	①				
			②				
	③						
	④						
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓	（主体性）常に自主的に行動し、チーム医療に適する資質を習得できる。 （実行力）傷病者のための具体的な栄養ケア方法を習得できる。 （課題発見力）課題発見し、専門的知識及び技術の統合をはかることができる。 （創造力）目標とする理栄養士をイメージし、取り組むことができる。 （発信力）質問を投げかけ、積極的な実習態度が身に付いている。 （傾聴力）傾聴力を養い、管理栄養士の使命や役割について理解できる。 （規律性）守秘義務の順守や社会的マナー等の規律性が整っている。		
			②	✓			
			③	✓			
			④	✓			
総合評価割合		100					

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
実習前の情報収集や、予習課題、実習中課題など、実習に臨む態度や行動が模範的であり、実習中の評価が優レベルであること。また、実習先での課題発やと、自分の考えを的確にまとめることができ、その内容を他の学生に影響する発信ができればA（優）とする。さらに実習先の評価が秀レベルであり、他の学生に影響力や意義のある発信をすることができればS（秀）とする。	実習先の情報収集や、事前課題の提出など、実習に臨む態度や行動は標準的であり、実習中の評価が良レベルであること、また、実習先での課題発見や、自分の考えを発信でき、他の学生を共有することができれば、B（良）とする。十分ではないが、努力しようとする意欲が認められればC（可）とする。

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1-15	臨床栄養の実習で次のことを学ぶ ・病院の概要とその施設の特徴 ・栄養部門についての機能と役割 ・栄養管理システムの実際 ・栄養指導の実際 ・チームケアの実際	実習 ・それぞれの実習施設の業務内容と指導方針に従って実施する。	・指示された準備を行い、予定に沿って実習を実施し、書式に沿って実習ノートを作成して提出できる。 ・実習で得た体験や振り返りなどを報告することができる。	・病院での栄養管理と管理栄養士の役割について理解する。実習に必要な専門知識を確認する。事前課題がある場合はその準備を行う。(予習) ・実習日程、学修内容、実習で得たこと、反省などを実習ノート、実習報告書にまとめる。(復習)	90	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力